

「招いてくれた猫」

お名前 山本光平

人物

宮原優大（23） 新入社員

安田義政（74） 居酒屋「安田屋」の店主

ウニ 安田屋周辺に住みつく野良猫

常連客たち

新入社員たち

社長

○研修施設・会議室・内

広々とした会議室にズラリと座っているスーツ姿の新入社員たち。

右端の方にやる気が無さそうに座る宮原優大（23）の足元にはピカピカのビジネスバッグ。

新人研修の動画から女性の声が流れる。

NA「株式会社アマダ・トラベルでは、ライフイズジャーニーをモットーに、お客様の快適な旅行をサポートできるよう・・・」

退屈な研修動画にウトウトする宮原
を肘でつつき、起こしてくれる女性。

宮原「・・・」

○同・休憩室・内

一人で昼食を食べる宮原。周りでは、
早速仲良くなった新入社員たちが、今
夜飲みに行こうかなどと話している。
その場に居づらそうな宮原、思わずワ
イヤレスイヤホンをつける。

○同・帰り道（夜）

豊かな自然に囲まれた夜道を一人で歩く宮原。足元には桜の花びら。暗い夜道にポツンと店がある。近くまで行くと「居酒屋 安田屋」の看板。宮原、その場に立ち尽くしていると、茶トラの猫が近づいてくる。

ウニ「ニャー・・・」

と、宮原に向かって鳴く猫。首輪にはウニと書かれた名札と鈴の音。

宮原、ウニを無視し続けるも、

ウニ「ニヤー、ニヤー！」

宮原に擦り寄るウニ。

宮原「しっこ・・・」

宿泊ホテルに帰る宮原を見送るウニ。

○ホテル付近・公園・内（夜）

宮原、公園にあるベンチに座りながら、

缶ビールを飲んでいる。

宮原、ため息をつく。

○安田屋・看板前

安田屋の前で止まると、夜にウニがいた裏路地を覗く宮原。

宮原「いるわけないか・・・」

と、諦めて研修施設に向かう。

○同・帰り道（夜）

ホテルに向かう途中、安田屋の前にウニがいた。

ウニ「ニャー・・・」

宮原、無視して立ち去ろうとすると、
後ろから鈴の音が近づいてくる。

宮原「えっ……」

宮原、後ろを振り向くと、ウニがついてきていた。

ウニ「ニャー……ニャー……」

と、宮原の足元に擦り寄ってくる。

ウニ、安田屋の看板の前に行くと、

ウニ「ニャー……」

と言って、看板の前にスリスリする。

宮原「わかったよ・・・」

宮原、安田屋の扉を開ける。

○安田屋・店内（夜）

店内では野球中継が流れている。

常連客たちが店主の安田義政（74）

と話している。安田、宮原に気づくと、

安田「いらっしやい！ 空いてるとこ座って」

宮原、カウンターに座ると、

安田、宮原にお通しを出す。

安田「お疲れさん！」

店内、笑い声が広がる。

ウニ、宮原の足元に擦り寄る。

安田「兄ちゃん、餌あげてやってよ」

宮原、餌をウニにあげる。

ウニ、餌にかぶりつく。

宮原、ウニを見つめる。

○研修施設・会議室

宮原、グループワークをしている。

新入社員たちは皆、半袖姿で額には汗。

宮原、活発に取り組んでいる。

○安田屋・店内（夜）

宮原、店の扉を開けるとウニがいた。

ウニ「ニャー・・・」

安田、宮原にお通しとビールを出す。

安田「お疲れさん！」

宮原「ありがとうございます」

宮原、ビールをゴクゴクと飲む。

宮原「うめえ・・・」

常連客3、テレビの野球中継をつける。

ウニ、喉を鳴らし、宮原に擦り寄る。

ウニ「ニヤア・・・」

宮原、ウニを抱え、野球中継を見る。

○研修施設・休憩室・内

新入社員たちに囲まれて昼食を食べる

宮原。以前とは違い、自然に会話の中

にいる。窓の外は綺麗な紅葉。

○安田屋・店内（夜）

宮原、店の扉を開ける。

常連客 1 「おお！ お疲れー」

安田 「お疲れさん！」

安田、宮原にお通しとビールを出す。

常連客たちとのやり取りで盛り上がる

宮原、話の流れで、

宮原 「今日で研修最後なんです」

店内、しみりとした雰囲気になるも、

常連客 1 「また顔出してくれな！」

と言つて、いつも通りの活気ある雰
囲気に戻る店内。

宮原、こっそりと安田に、

宮原「そういえば、ウニつてどこですか？」

安田「上で寝てるよ。最後に餌あげてく？」

宮原「またいつか来るんで、大丈夫です」

宮原、独りで静かにビールを飲む。

○アマダトラベル・本社・オフィス内

活気あるオフィス内。

窓の外は大きなビルが並んでおり、雪が積もっている。

宮原、コート姿でオフィスに戻る。

宮原「ただいま戻りましたー」

上司1「お疲れさま。寒かったでしょ？」

宮原「雪降ってきましたよ」

上司2、窓の外の側に行き、

上司2「あ、ホントだ・・・」

宮原、コートをハンガーにかけるとデスクに座り、パソコンで作業を再開。

○同・オフィス・内

壁には『新入社員の皆様、入社おめでとうございます！』とのポスター。

後輩たちが、真剣な眼差しで横に並んでいる。

後輩1 「本日から、お世話になります！」

との掛け声で、礼をする後輩たち。

オフィスからは先輩の温かい拍手。

宮原、出張からオフィスに戻ると、上

司が後輩たちを手で指し示す。

上司「宮原、新入社員の子たち」

宮原「宮原です。よろしく願います」

上司「この子達の研修、宮原にメンターとして来て欲しいんだけど」

○同・社員食堂

宮原、プレートに乗ったカレーを持って、空いてる席を探す。視線の先には、先ほど挨拶をしていた後輩。独りで寂しそうな表情。宮原、その隣に座ると、

宮原「隣、いいかな？」

後輩、驚いた表情で、

後輩「あ、もちろんです・・・！」

○研修施設・休憩室

後輩たちに囲まれて昼食を食べる宮原。

後輩1「宮原先輩、ここに来たことあるんで

すか？」

宮原「あるよ。研修の時、よく行った店が

あって」

後輩2 「行ってみたいですよ！」

宮原 「じゃあ、今日の仕事終わり、行く？」

○安田屋・店内（夜）

扉が開くと、宮原と後輩たち。

常連客1 「おおー！ 兄ちゃん、久しぶり！」

安田 「後ろの座敷使っているよ」

○同・座敷（夜）

宮原、独りでビールを飲んでいる。

後輩たちはカウンターで常連客たちと
談笑しており、店に馴染んでいる。

安田、食べ終わった皿を回収しにくる。

宮原「マスター、ウニって・・・」

安田、気まずそうな顔をする、

安田「死んじゃったよ。兄ちゃんが帰った後」

安田、無言で立ち去る。

宮原「・・・」

宮原、ショックを隠せない。

店内には笑い声が鳴り響く。

○同・帰り道（夜）

肩を落としてホテルに向かう主人公と、
酔っ払って盛り上がる後輩たち。

宮原「酔い覚ましてくるから、先戻ってて」
後輩たち「ご馳走様でした！」

宮原、ホテルと反対側に歩き出す。

○ホテル付近・公園・内（夜）

宮原、ベンチに座り、黄昏ている。

1年前と何一つ変わっていない公園。

突然、強風が吹き荒れる。

砂埃で目を開けられない宮原。

強風が止み、目を開けると、目の前には首元に鈴のついた茶トラの子猫。

小猫「ニャー・・・」

と、宮原に向かって鳴くと、公園を出て、奥の路地に向かって走り出す。

鈴の音を鳴らしながら、暗闇に消えていく子猫。宮原、暗闇に消えていく子猫を見つめる。